

ケアマネ連絡会

◇令和 6 年度 事業報告

1、主な構成メンバー

- ・長野市障害福祉課
- ・長野市北部障害者相談支援センター(5 名)
- ・長野市南部障害者相談支援センター(4名)
- ・長野市北部発達相談支援センター(1 名)
- ・長野市南部発達相談支援センター(1 名)
- ・長野市障害者権利擁護サポートセンター(2 名)
- ・長野市障害者地域移行コーディネートセンター(1 名)

2、今年度の取り組み

ケアマネ連絡会では、各部会や委員会、ワーキングの活動状況や参加された会議等についての情報共有を中心に行ってきた。また今年度は4つの地域課題ワーキングの事務局を担当した。また相談支援から見えてくる地域課題の抽出や共有を行い、今後の方向性の検討を行った。

3、ケアマネ連絡会の活動状況・主な成果と課題

(1)ケアマネ連絡会活動報告

【長野市障害ふくしネット】

事業名・会議名	事業内容・会議内容	今年度の振り返り
各部会への参加 (ふくしネットフェスタ)	各部会・委員会の定例会・執行部への参画 ふくしネットフェスタへの参加	・部会担当を決め、各部会・委員会へ参画。ケアマネ連絡会で各部会・委員会の課題等状況を共有・検討した。検討内容は部会・委員会内での課題検討や取組等に活かせるよう意識した。 ・ふくしネットフェスタは、担当部会と共に参加・協力を行った。
指定相談支援事業所連絡会	長野市内の指定相談支援事業所の相談支援専門員の定例会議。制度や新規事業所、社会資源等について情報共有、テーマに基づいた学習、事例検討、グループワークを実施。主任相談支援専門員との意見交換会を5回実施。	ケアマネ連絡会、相談支援事業所連絡会執行部、長野市障害福祉課とで協力して、一体的に運営した。ケアマネ連絡会としては地域課題を意識しての関りに努めた。また、相談支援センターとして人材育成の視点で相談支援専門員との連携強化に努めた。
運営委員会	・運営委員会 ・事務局会議	今年度から運営委員会が部会長連絡会と一体化されたので、ケアマネ連絡会全員

		が出席者となり、情報共有が容易だった。障害者相談支援センター運営の必要性から、全ての回に全員の参加はできなかった。 事務局会議へは代表者が参加し、運営委員会のための議題整理等を行った。
--	--	--

【会議等(長野市)】

事業名・会議名	事業内容・会議内容	今年度の振り返り
障害支援区分認定審査会	障害支援区分の審査	・毎月1回、約30件の審査を行った。 ・今年度も全て対面の審査であった。
長野市障害者虐待防止連携協議会	障害者虐待等に関する情報共有を目的とし、長野市障害福祉課と権利擁護サポートセンターが連携して行う協議会	R6年9月11日に開催。 R5年度活動報告・R6年度活動方針・虐待に関する調査と事例についての報告・福祉事業所による取り組みの報告を受け、各関係機関との意見交換を行った。
長野市障害者差別解消連携協議会	障害を理由とする差別を解消する取り組みを効果的、円滑に行うことを目的とし長野市障害福祉課と権利擁護サポートセンターが連携して行う協議会	R6年9月11日に開催。 R5年度活動報告・R6年度活動方針の報告と、民間事業者における合理的配慮についてご説明いただき、各関係機関との意見交換を行った。
長野地域成年後見支援ネットワーク協議会	長野市成年後見支援センターの運営及び成年後見制度の利用促進に関わる会議に年2回出席した。	第1回(R6.8.28)第2回(R7.02.19) ・長野市成年後見支援センターの運営状況についての確認 ・成年後見制度利用支援事業について ・第二期成年後見制度利用促進基本計画に係る中間検証について 成年後見制度の現状と課題、今後の方向性について協議した。

スキルアップ研修	地域の相談支援事業者の人材育成の支援として、3回の研修会(スキルアップ研修)を企画・運営した。	第1回「『気軽にスーパービジョン』を学ぶ」11月22日 講師:江間 由紀夫氏(佐久大学) 第2回「相談支援に求められる役割とは」1月17日 講師:大塚 晃氏(日本発達障害ネットワーク) 第3回「R6 年度相談支援にかかわる報酬改定の内容とその活用」 講師:橋詰 正氏(上小圏域基幹相談支援センター 所長) 今年度は、報酬改定について知識を深め制度活用を考えると同時に、相談支援の役割や将来の相談支援体制を考える機会とした。
長野市地域福祉推進会議	第四次地域福祉計画の実施状況や、その他市の地域福祉の推進について、関係機関が集まり意見交換を行うための会議。	実施日:第3回 R7 年 2 月 3 日 参加者:アドバイザー会員9名中7名 社協 包括 福祉政策課 13名 内容①第4次長野市地域福祉計画における基本施策の進捗状況(評価 B) ②重層的支援体制整備事業についての報告 ③孤立防止・見守りネットワーク地域支援事業についての報告
ひきこもり支援ネットワーク会議	ひきこもり支援を推進するため、関係機関や団体が相互に連携できる体制を構築し、必要な情報交換や課題検討を行う会議。	11月26日に開催。①市のひきこもり支援の取り組み状況について、保健所、まいさぼからの報告 ②長野県ひきこもり支援センターの取り組みについての報告 ③意見交換(主に、各機関の考えるひきこもり支援のゴール<目指すこと>)について)を行った。
特別支援コーディネーター連絡会	各支会に分かれた研修会・連絡会と全体会に参加。 また、連絡会の運営委員としても参加した。 教育と福祉の連携の部分で情報提供などを行う。	運営委員会 年 3 回 特 Co 連絡会 年 3 回 「福祉からの情報提供」という部分で相談支援体制について、現状などを報告した。
教育支援委員会	特別支援の配慮が必要な児童生徒への適切な就学先を検討し、判断する委員会	年 14 回参加。

【会議等(長野県)】

事業名・会議名	事業内容・会議内容	今年度の振り返り
障がい者相談支援体制機能強化会議	各市町村の障害者総合支援センター代表と、行政が参加。県の自立協議会に位置づけられた会議として、各地域の障害者相談支援体制の整備及び質の向上を目的とする会議。	年間で3回開催、各テーマは「障害者総合支援法の改正のポイント」「令和 6 年度相談支援従事者指導者養成研修報告」「障がい者の地域生活を応援する地域生活支援拠点の効果に向けて」だった。圏域ごとの現状を小グループで話し合い、圏域の支援体制強化に向けて連携するよう話し合う時間も持たれた。 参加人数に制限があり、主任相談支援専門員の参加ができなかった。
長野県自立支援協議会	長野県自立支援協議会の各部会の活動状況や各市町村の状況報告を、県全体の市町村へ周知することを目的とした会議。	◇年 3 回参加(6/13、11/21、3/11) ・第 1 回 長野県自立支援協議会について/専門部会等の活動計画について ・第 2 回 専門部会等の活動状況/地域(自立支援)協議会の活動状況について ・第 3 回 専門部会等の活動状況/圏域(地域)協議会と県協議会の取り組みについて/地域からの課題について ○県自立支援協議会で得られた県内市町村の状況や課題・情報について長野市ふくしネットにて共有した。とくに県内での成功事例などを地域での取り組みに活かせるよう意識して伝達した。
長野圏域委託相談連絡会	長野圏域内各市町村の委託センター間で、情報や課題を持ち寄り検討していく目的で、3 年前から各市町村センターが輪番制で開催している会議。今後も継続していく方向。	・第 1 回(6/11)もんぜんプラザにて開催 就労選択支援の勉強会について/現任研修実地実習の共同開催について/主任相談支援専門員の役割について/関係機関からのケースの受け方、関係機関との業務のすみわけ(出席者:21 名) ・第 2 回(2/5)桃の郷にて開催 地域生活支援拠点の進捗状況と現状/県の人材育成部会の地域代表について/相談支援専門員の不足について/就労支援事業所における高齢化対策/相談支援事業所への情報周知について等 ◇来年度の連絡会の開催について (出席者:17 名+オンライン参加 4 名)

【地域課題 WG】

事業名・会議名	事業内容・会議内容	今年度の振り返り
災害時の支援体制	個別避難計画や福祉避難所の取組状況を、福祉政策課に協力いただき確認。 行動障害のある方を中心に、どんな避難先だと言きやすいか検討した。	・家族や実際支援している事業所の声を聞き、どんな指定福祉避難所が求められるかを考え、障害福祉事業所に対して説明・検討の機会を設けた。 ・準備会 8 回 ・ワーキング開催 家族対象 1 回・支援している事業所対象 1 回・説明会 1 回
高齢化問題	高齢化問題に関する課題検討を行う。 今年度は WG メンバーとしてくらし部会が参加。	昨年度は「移動」に関する課題を中心に検討し、担い手不足・人手不足が深刻という現状が見えてきた。そこで今年度は「通院にいかなくてもよい方法」について検討を重ね、「訪問診療」や「オンライン診療」の可能性について話し合った。またグループホームでは高齢化に伴い通院の頻度が高まり日々の業務に支障が出ているという課題から、くらし部会と共同で通院に関するアンケート調査を実施した。7 回開催(7/29、8/26、9/30、10/28、11/28、1/27、2/25)
GH 休日支援	GH 事業所や居宅介護事業を中心としたメンバーで実際の過ごし方や休日余暇活動に対する課題についてアンケートを実施、レクリエーション活動の充実に向けて検討した。	執行部を 4 回実施、GH 運営法人へ休日の過ごし方(充実)についてアンケートを行い、特に重度・中度知的障がい者の休日が充実しづらくなっていることが分かった。マンパワー不足だけではなく支援力や金銭的な理由もあるが、長野市障害者レクリエーション活動等支援事業補助金を使いながら、地域サポーター制度を立ち上げることとなり、GH 運営事業者へ説明会を行った。
医ケア児の移送問題	医療的ケア児通院時同行事業について令和 7 年度予算に向けての会議	医療的ケア児通院時同行支援事業(案)の令和 7 年度予算に向けて内容の確認・予算化に伴い要綱の検討・今後の進め方について話し合いを行った。3 回開催。(6/26、1/21、3/7)

(2)総括

①長野市障害ふくしネット

ケアマネ連絡会から各部会・委員会及びその執行部へ担当として参加した。月2回のケアマネ連絡会で部会等の会議報告により運用状況の共有を行った。今年度は各部会・委員会が感じている地域課題の抽出を意識しながら運営のサポートにあたった。今年度から障害福祉課、当事者代表専門部会長、委員長、相談委託法人の代表者、ケアマネ連絡会が一堂に会し、運営委員会を月1回程度開催された。運営委員会では①各部会、委員会からの報告②全体協議会、ふくしネットフェスタ開催に関する検討③地域課題の検討④ふくしネットの運営についてなどが検討された。一堂に会し検討することでふくしネット運営の共有が図られたのではないかと。

②地域課題の検討

- ・令和3年度から継続している地域課題B群、C群について引き続き検討を行い、別紙のとりの結論とした。地域課題A群については、引き続き4つの地域課題ワーキングに参加し、検討状況をケアマネ連絡会の中で共有しながら、課題解決にむけて取り組んでいる。
- ・本年度は、相談からみえる地域課題を意識することをケアマネ連絡会の目標とし、新たに2つの地域課題を運営委員会に提案した。

(1)「緊急時の相談窓口や受け入れ体制の整備について」 ※別紙資料参照

相談支援専門員より相談支援センターに相談があった事例から、緊急時に相談できる窓口の整備や、短期入所等の受け入れ事業所の整備などについて検討するワーキンググループの設置について7月運営委員会にて提案。

(2)「強度行動障害のある方を地域で支えるしくみの整備について」 ※別紙資料参照

相談支援専門員や相談支援センターが関わる複数のケースから、障害児入所施設から地域生活への移行に関するしくみの整備や、地域で暮らす強度行動障害児者を支える資源の少なさや、受け入れ事業所を支えるしくみの整備について10月運営委員会にて提案。

③人材育成への取り組み

今年度も「指定相談事業所連絡会」に参加し、人材育成の視点で相談支援専門員との連携に努めた。また、昨年度まで障害者相談支援センターと発達相談支援センターで取り組んでいた、「スキルアップ研修」の企画、「初任・現任研修」の「地域でのインターバル実践」を今年度は、ケアマネ連絡会の人材育成として取り組んだ。